

主催：グローバル COE プログラム「世界を先導する原子力教育研究イニシアチブ」
(東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻)

平成 21-23 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究課題
「原子力利用ガバナンスの確立に向けた社会技術に関する研究」

第 4 回原子力法工学ワークショップ

「原子力利用のガバナンスを考える」

-セーフティ、セキュリティ、地域の合意形成をめぐって-

日 時：2009 年 12 月 2 日(水) 13:00~17:30

場 所：東京大学 武田先端知ビル 5 階武田ホール

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-11-16

<http://www.vdec.u-tokyo.ac.jp/Guide/access.html>

参加費：無料

開催目的：

原子力施設の安全を確保するためには、設計段階、建設段階、運転段階のそれぞれにおける取組の妥当性が確認され、社会に示されなければならない。しかし、現在の規制は、合理性・実効性を欠き信頼醸成を阻害する原子力システムをもたらしている。

さらに、近年では、核も含めたセキュリティに関する関心が世界的に高まっている。第二次世界大戦以降、セキュリティへの関心が低下していた我が国も、実効性のあるセキュリティ対策が必要とされていると同時に、国民的な関心を高めていく必要に迫られている。

また、地方分権の潮流の中で、原子力施設の運転再開等の様々な場面において、地域における合意形成の重要性が高まっている。合意形成に資するような制度の設計やコミュニケーションのあり方という要素だけではなく、全体的な合意形成プロセスのあり方を再検討していく必要がある。

このような現状認識の下で、原子力安全規制を中心とした狭義の法規制のみを対象とするのではなく、原子力を有効に利用していく際に必要とされるガバナンスを確立するために、民間規格や安全協定等も含めた社会技術に関する研究を行うことが重要である。

本ワークショップは、「セーフティガバナンス」、「セキュリティガバナンス」、「地域の合意形成プロセス」という 3 つの領域におけるガバナンスに焦点を当てて現状における課題の整理や改善の方向性について話し合うことによって、原子力事業に係るステークホルダーの間で問題意識を共有することを目的とする。

プログラム :

13:00～13:05 開会挨拶

班目 春樹 (東京大学大学院工学系研究科 教授)

13:05～13:20 概要説明「原子力ガバナンスの確立に向けた社会技術に関する研究概要」

木村 浩 (東京大学大学院工学系研究科 准教授)

13:20～14:00 講演1「セーフティガバナンス(仮)」

松浦祥次郎 (原子力安全研究協会 理事長)

14:00～14:40 講演2「セキュリティガバナンス(仮)」

中込 良廣 (原子力安全基盤機構 理事長代理)

14:40～15:20 講演3「地域の合意形成プロセス(仮)」

森田 朗 (東京大学公共政策大学院 教授)

15:20～15:40 コーヒーブレイク

15:40～17:25 パネルディスカッション :

コーディネーター 班目 春樹

パネリスト 木村 浩

松浦祥次郎

中込 良廣

森田 朗

17:25～17:30 閉会挨拶

参加お申し込み先 :

東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻 班目研究室

E-mail : ethics@nuclear.jp

(ご氏名、ご所属、ご連絡先を付して11月27日(金)17:00までにメールにてお申し込みください)